

# 神戸女学院大学

## 人間科学部 心理・行動科学科

### 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第1号

【初の試み】実習医療機関より、就職ガイダンスを開催いただきました。



今年度より4回生の精神保健福祉援助実習でお世話になるハートランドしぎさん(奈良県)の職員の方より、精神保健福祉士の実務や具体的な就職に関するお話を伺いました。当日は精神保健福祉士養成課程の4回生10名、3回生7名が参加しました。

精神保健福祉士が所属している部署をメインにご紹介いただきました。年々児童分野に関心を持つ学生が増えており、発達障害の治療とセラピーに特化した専門外来があることについては関心を寄せる姿勢が伺えました。



#### 参加した4回生の感想

★医療機関への実習前に、精神科病院での精神保健福祉士の役割について貴重なお話を聴かせていただき、とても勉強になりました。各部門における精神保健福祉士の役割を細かく教えて頂き、イメージが膨らみました。

特に、精神科救急急性期病棟での役割として、3カ月以内の退院のために尽力されているということが印象に残りました。長期入院を減らすための努力として、長期入院患者の退院支援だけでなく、予防的な側面での退院支援が重要であるということに気づくことが出来ました。

★患者さんから対人関係についての相談を受け、解決策が導き出された時に、個別でSSTを行って、患者さんに一度予習してもらおうというお話がとても印象的であった。

これは、患者さんにとってとても有意義な時間となるだろうと感じた。また、就労支援において、根本に働くモチベーションがなければ続かないため、なぜ仕事をしたいのかの理由を決めてもらうことがとても大切である、ということも学ぶことができ、就労支援に携わる際に活かしたいと感じた。

★幅広い年齢層に対応しているというお話があり、興味を持ったので、実習に行く同級生からも実習の様子を聞きながら就職活動について考えていきたいと思えます。

★就労支援を利用するまでの手続きでつまずいてしまう人が多いことや、デイケアで、利用者の方の趣味を聞いたりすることは、普段と違う環境でなるべく戸惑わないようにするための工夫の一つであることなど、実際に働いている精神保健福祉士の方のお話を聞くことができ、とても貴重な時間を過ごすことができました。

★目ではわからない発達障害は子どもの頃に発達障害だとわかる人や大人になってからわかる人など様々な人がいるため、ライフステージに合わせた支援を教育機関やリハビリ機関との連携で行うことの重要性を知り、幅広い年代が相談しやすい窓口設置の必要性を感じた。

遠方にも関わらず、朝早くからご来校いただきました  
高幣様、澤井様、古山様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



# 神戸女学院大学

## 人間科学部 心理・行動科学科

### 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第2号

3年生の授業(ソーシャルワーク演習)において、ヤンマーシンビオシス株式会社(特例子会社)へ見学に行かせていただきました。本学科の卒業生である佐藤円佳さんが精神保健福祉士としてご活躍されています。

社長とのご挨拶、社内見学、質疑応答と細やかにご対応いただきました。企業内での精神保健福祉士の活躍について深く知ることができる貴重な機会となりました。



#### 参加した3年生の感想の一部をご紹介します



・今回の実習を通して「この会社を辞めた際にも、次の職場でも働きやすいように支援していく」という考え方に感銘を受けました。仕事の中で、コミュニケーションの取り方や考え方の癖、捉え方の癖など働きながら自己覚知ができることで、社員の方全員が自分を見つめ直すきっかけになるのだと思いました。そして、社員さんが働くことに満足し、誇りを持つ為に、その人その人の個性を生かすことが大切だと改めて学びました。

・障がいを持っている人でも、地域の就労支援事業所以外でヤンマーシンビオシス株式会社のように、オフィスで働く形もあることに感銘を受け、それぞれの人が得意分野を生かして、働くことが出来ている姿にも感動しました。一つのオフィスに、パソコンを使うお仕事だけというのではなく、郵便の管理や名刺の作成、封筒の作業と様々な働き方が同室で行われているところも、会社の良いところ・特徴だと感じました。



・私が一番印象に残ったのは、佐藤様の企業で働く精神保健福祉士の役割についてのお話でした。企業の場合、お客様はその会社の外の人にあたり、内部で働く障害者は職場の仲間の一人としてみるというのがとても印象的でした。今まで、福祉施設や病院など障害者の方がある種お客様としてみる視点でしか物事を捉えられていなかったのがとても勉強になりました。

・訪問し、1番驚いたことは障害者の人が働いていることが一切感じられなかった所です。初め見た時、別の場所に事業所があるのだと思っていました。皆さん黙々と作業されており、自立して働いている姿を見ると、もっともっと障害を持った人が自由に働ける社会になって欲しいと強く感じました。

・会社としての在り方を学びました。ヤンマーシンビオシスさんでは、障害のある方たちを一人の会社員として、一人の社会人として接していることが分かりました。当たり前ではあるかもしれませんが、「障害者だから」という考えが一切なく、社会の一員として障害のある人と共に働く姿が非常にいいなと感じました。そして、このように接することは、会社だけでなく、普段障害のある人と関わる際にも大切なことだと思いました。

ヤンマーシンビオシス株式会社みなさまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 神戸女学院大学

## 人間科学部 心理・行動科学科

### 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第3号

人間科学部 精神保健福祉士養成課程の勉強会を開催しました。



人間科学部 精神保健福祉士養成課程ではこれまで23期、総勢170名の卒業生を送り出しています。この度、OGと在校生(精神保健福祉士養成課程3・4回生)を対象にした勉強会を9月某日に学内で開催しました。

**テーマは【障害年金について】**

障害年金を専門として業務されている社会保険労務士の 震明裕子先生をお招きし、ご講義いただきました。

#### 参加者の感想

- ・病院でソーシャルワーカーとして勤務しており、障害年金申請の相談を受けることが多くあります。病歴が長い方だと初診日が分からない方が多く、申請できるかどうかを確認するまで色々な病院に問い合わせをしたり、大変な業務だなあと感じます。今日はとても分かりやすい説明をいただき、とても勉強になりました。今後の業務でも今日ご教授いただいたポイントを活かしていきたいと思えます。
- ・障害年金について、国家試験対策程度の知識しか持っておらず、実践するにはやや不安を感じておりましたので、この機会ですべて学ぶことができ良かったです。活かしていければと思います。
- ・障害年金において初診日が非常に重要なポイントになってくることを知らず、先天性知的障害の際は初診日が誕生日になり、発達障害の際は自覚症状があつて初めて診療を受けた日が初診日になることを学ぶことができ、良かったです。
- ・障害年金について学習するときもあまりうまく頭に入らなかったため、今回事例も加えて丁寧に説明いただき、理解が深まりました。特に「仕事をしているからと言って日常生活能力が向上したのとは捉えない」部分が印象的でした。

#### 和やかな交流会♪

勉強会後はOG生と在校生の交流会を開催しました。現在就職活動中の4回生はOG生へどのように就職活動を行ったか、就職先の決め手は何であったか、国家試験に向けた勉強方法などそれぞれ質問し、真剣な面持ちでアドバイスを聞いていました。OG生同士も業務内容の意見交換や、在校生へ優しく声を掛けるなど、和やかな雰囲気の中で交流することができました。

コロナウィルスやインフルエンザ等感染症の流行が懸念されるものの、女学院の繋がりで出会えたご縁を今後も大切にしていきたいです。



震明先生、参加された皆様へ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 神戸女学院大学

## 人間科学部 心理・行動科学科

### 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第4号

3回生の授業(ソーシャルワーク実習指導Ⅰ)において、今年度も小阪病院にて見学実習をさせていただきました。法人内では神戸女学院大学 精神保健福祉士養成課程を卒業した多数のOGが精神保健福祉士としてご活躍されています。

初めての精神科病院に緊張した面持ちでしたが、それぞれの見学先でお会いした精神保健福祉士のみなさんの物腰の柔らかさに段々と緊張が解れた様子でした。



#### 参加した3回生の感想

- ・認知症病棟、開放病棟のデイルームを見学させていただいた際、それぞれいらっしゃる患者さんに合わせて認知症病棟では、転んだ際も大げがをしないように床の材質がクッションの効くように工夫されていること、自傷行為の恐れが少ないので、自販機が設置してあることにも驚きました。
- ・デイケアセンターは、自分に合ったプログラムや次のステップに進もうとしている方が楽しみながら社会参加することを目指しているとお聞きしていましたが、バンドを組んだり想像していたより活動的で実際演奏しているところを見てみたいと思いました。
- ・アプレンドやふうが自分が想像していたより小阪病院の近くであって驚きました。それぞれの施設で行っているプログラムが違っており、面白そうなプログラムもあり興味深かったです。また、それぞれの施設がとても綺麗で温かく、通いやすい雰囲気でした。
- ・小阪病院の実習を通して、ゆったりとした空間の中で、患者さんと関わり、向き合っていきたいという目標を立てることができました。

大変お忙しい中、貴重なお話と見学のお時間を設けていただき、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

#### 学生からの質疑応答(一部ご紹介)

Q1: 安心できる場所をつくる時に心がけていることは？  
A1: 面談をする場所も居室・デイコーナー・面談室・詰所とたくさん選ぶことができるので、「患者様に話しやすい場所はどこですか？」と聞くようになっています。

Q2: 小阪病院が掲げている目標「治すこと」「癒すこと」「スピリチュアル」の中の、「スピリチュアル」を実現させるために行われていることは？

A2: サービス全て。それらは、笑顔で挨拶するところから始まります(スマイルマークというバッジをつけ、職員全員で取り組んでいます)。人を喜ばせるのも悲しませるのも結局は「人」です。最近はじめた「癒しの小阪」の取り組み(ドッグセラピー、ロビーコンサート、ヨガ等々)が、わかりやすいかもしれませんが、それはほんの一部です。



# 神戸女学院大学

## 人間科学部 心理・行動科学科

### 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第5号



3回生の授業(ソーシャルワーク実習指導Ⅰ)において、大阪府吹田市にある榎坂病院とオンライン(Zoom)上で見学実習をさせていただきました。

吹田市の精神科単科病院は榎坂病院のみであることから、榎坂病院が地域で担っている役割や特徴をご説明いただきました。また、病院とデイケアで働く精神保健福祉士の業務内容なども細やかに教えていただきました。



#### 参加した3回生の感想



- 患者さん主体で、患者さんに決めてもらうことを大切にしていることが印象的でした。
- 長期入院患者が多い点について、閉鎖的な環境であれば退院意欲が高まりそうだが、患者さんにとっての榎坂病院は開放的な環境なのだろうか？と感じた。
- 自ら選んで病院に入院されている方が多いということは、ある意味でリラックスできている場、病院が安全な場であるという一面があると感じた。しかし、実際は退院に向けた取り組みを行う必要があり、そのすり合わせが難しそうだった。
- デイケアを利用登録されている方が20代～80代と幅広いいらっしゃることを知り、年齢で分けずにみんなと一緒にいられる空間が良いと思った。
- 実習前、デイケアは職種ごとに支援する内容が分かれていると思っていた。今日の実習を通して多職種と一緒に一人の方へ関わっていることがわかった。

#### 学生からの質疑応答(一部ご紹介)

Q1: 医療福祉相談で件数が多い内容を知りたいです。  
A1: 最近は介護施設からの入院相談が最も多い。

Q2: ケースワーカーとして院外に出る機会がありますか？  
A2: 患者さんの他科受診に同行したり、患者さんと一緒にお金を引き出しに銀行へ行ったり、市役所で申請手続きを行う。地域の会議に出席することもある。

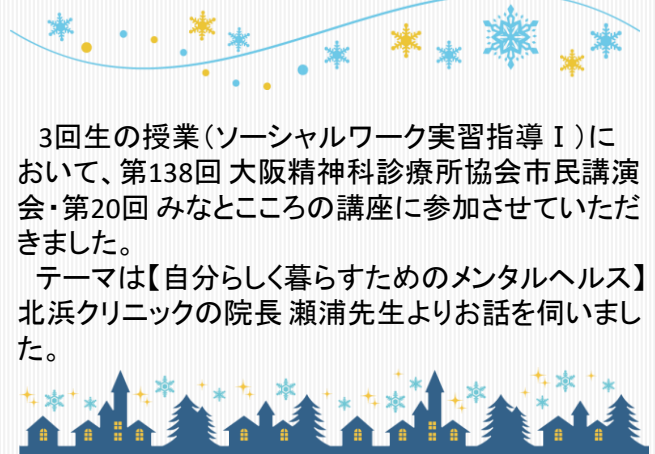
Q3: 長期入院の割合はどのくらいでしょうか？  
A3: 1年以上入院されている方が8割程を占める。

Q4: 長期入院の患者さんに対してどのような退院支援を行っていますか？  
A4: 地域生活にかかる費用よりも入院費の方が安いという理由を挙げる方もいる。人権尊重の観点から無理やり退院させることはできないため、ご本人の意向を尊重しながら進めている。

Q5: 隣接している社会福祉法人松柏会老人ホーム「エバーグリーン」とは繋がりがあるのでしょうか。また、榎坂病院とエバーグリーンとで、医療法人と社会福祉法人の違いを設けている理由や大きな違いがあれば教えてください。  
A5: 入院患者さんがエバーグリーンへ退院することもある。創設者のご家族が児童養護施設を設立された経緯から、法人種別が異なる。

大変お忙しい中、ご対応いただきましたケースワーカーの服部先生に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。





3回生の授業(ソーシャルワーク実習指導Ⅰ)において、第138回 大阪精神科診療所協会市民講演会・第20回 みなとこころの講座に参加させていただきました。

テーマは【自分らしく暮らすためのメンタルヘルス】北浜クリニックの院長 瀬浦先生よりお話を伺いました。

#### 参加した3回生の感想



- ストレスというテーマのため、精神疾患に馴染みのない市民のみなさんにとっても聞きやすかったのでは、と感じた。講座は投げかける終わり方をされていたので、参加者全員にとって考えるきっかけになったと思う。
- 精神科は症状が重い方だけが受診するところと思っていたが、そうではないことに気づいた。
- うつ病だけを抱えて働いている方は自分が思っていたよりも少ないことを学んだ。
- 私はストレスを抱えやすく、体調にも出やすいと自覚しています。講座の中で印象的であったのは、薬に重きを置くのではなく、認知行動療法やマインドフルネスが有効であること。また、クリニックの写真も見ることができ、参加されている市民の方々にとって精神科や心療内科の印象が変わったのではないかな、と感じました。
- 自分自身も悩むことがあり、講座の内容はグサツときた。講座内の質疑応答では、このように答えるのではないかと自身で考えた内容と異なる回答をされており、初対面の関係性にも関わらずしっかりと考えて対応されていることに驚いた。

講演後は、主催機関の1つである特定非営利活動法人障害者の福祉を進める会などにおいて、精神保健福祉士として従事されている難波様と大堀様に学生からの質疑応答をお答えいただきました。その一部をご紹介します。



- Q1: 就労支援の現場において、精神保健福祉士の方が日頃心がけていることや注意していることがあれば教えてください。
- A1: 難波様: 本人の強み、課題をしっかりとアセスメントすること。障害者就業・生活支援センターやハローワークに繋げることになるため、ご本人のセールスポイントをしっかりと伝えられるようにする。  
大堀様: みんなが同じ考え方を持って接すること(統一した支援をすること)。
- Q2: 症状が悪化してしまい、就労継続支援B型事業所に通所ができなくなった方の援助は行っていますか?
- A2: あくまでも通所されている方へのサービスとなるため、通所できなくなった方への援助は行っていません。しかしながら、ヘルパーや訪問看護、主治医や地域の関係者など関係者と情報共有し、なるべく孤立しないような働きかけは行っています。

参加をお受けいただきました主催者のみなさま、瀬浦先生、難波様、大堀様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 神戸女学院大学

## 人間科学部 心理・行動科学科

### 精神保健福祉士養成課程 ニュースレター

第7号

#### 4回生による精神保健福祉援助実習 実習報告会を開催しました！



12月16日(土)、4回生 10名による精神保健福祉援助実習 実習報告会が行われました。今年度も対面×Zoomのハイブリッド型を導入し、実習指導者の先生方にも、対面・Zoom両方からご参加いただきました。報告会の合間に設けた茶話会では在学生、OGの垣根を超えて繋がれる交流の場となりました。

#### 4回生への質疑応答(一部ご紹介)

Q1)医療機関での精神保健福祉士の人数とニーズのアンバランスさはどのような場面で感じたか？

A1)新規の受診・入院相談が多くあると聞き、1人1人にかかる時間は限られていることを知った。実習指導者の方から支援が行き届いていない方もいるかもしれない状況を教えていただいた。精神保健福祉士の需要が高まっている中で、職員の少なさを感じた。

Q2)今後精神保健福祉士として働くにあたって、不安を乗り越えるための方法やきっかけを知りたいです。

A2)実習指導者の方に不安な気持ちやどう思ったかをきちんと伝え、フィードバックしてもらった。それだけでは乗り越えられず、帰校日に実習担当の先生に話をさせてもらったり、家族に話をしたり、同じ期間に実習へ行っていた友人に話をし、意見をもらうことでかみ砕いて消化することができた。これだけでなく、色々な実習の中で不安に感じたことあるが、信頼できる人に話すことが一番と思う。

4回生の実習発表後は、OGゲスト講師として中舎さん(11期生 株式会社Rodina リワークセンター神戸・管理者兼サービス管理責任者)をお招きしました。

卒後就職された地域事業所でのご経験から、現職の業務内容、転職活動、在学生へ伝えたいメッセージなど、盛りだくさんにお話いただきました。

同じ学科の先輩から直接お話を伺える機会は実習報告会ならではのです。是非この繋がりを卒業後も大切にしてほしいと期待しています。



大変お忙しい中、ご参加くださいました実習指導者の先生方、OGのみなさまに心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。